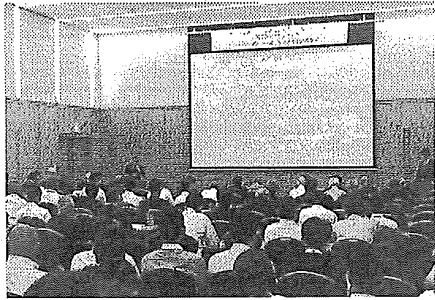


インフラメンテ国民会議

温度制御舗装など提案

OBが技術アドバイス組織

インフラメンテナンズ国民会議九州フォーラム（リーダー・日野伸一、大分工業高専学校長）は9日、福岡市の福岡国際会議場で第3回ヒッチイベントを開いた。写真。熊本県と熊本県八代市がニーズを説明し、それに対するシーズ技術を民間企業が提案しマッチングを図った。また、同フォーラムは、OBの技術者で構成する組織「シニア・テックグループ（仮称）」を設置し、技術アドバイスなどを行う新たな自治体支援に取り組むことを明らかにした。



熊本県のニーズは、「温度制御が可能となる橋面の舗装技術」。冬季の雪氷対策は、地域維持型J.V.により対応路線の調整や当番制導入、凍結防止剤の融通などに取り組んでいるが、ハード面からさらなる負担軽減が図れないかと問い掛けた。

これに対し、ガイアートが「FFP工法」、透水性レジンモルタルシステム工法協議

め判定にばらつきがあり、補修工事では解体・積み直しの場合、膨大な費用がかかるという現状を説明した。

これに対し、点検・診断の観点から建設プロジェクトセンター、有明測量開発社、中央コンサルタンツ、補修技術の観点から尾上建設、葵文化が技術や施工事例を提案・紹介した。

シニア・テックグループ（仮称）は、インフラメンテナンズに取り組む自治体に、OBが中立的立場で技術アドバイス・情報提供を無償で行う。現在は体制構築中で、九州地方整備局の出先事務所単位での活動を目標に、20年以上の実務経験を持ち、常勤で民間企業などに所属していないことなどを条件にメンバー募集している。

熊本県のニーズは、「温度制御が可能となる橋面の舗装技術」。冬季の雪氷対策は、地域維持型J.V.により対応路線の調整や当番制導入、凍結防止剤の融通などに取り組んでいるが、ハード面からさらなる負担軽減が図れないかと問い掛けた。

これに対し、ガイアートが「FFP工法」、透水性レジンモルタルシステム工法協議

20橋の石橋を管理する八代市は、石橋の点検・診断と補修技術を求めた。石橋に特化した点検マニュアルがない